

# 日本ラテンアメリカ学会

## 会 報

№ 1 5

1 9 8 4 年 4 月 2 0 日

### 第 1 5 号 目 次

- 1 理事会報告
- 2 学術・文化情報
- 3 会員活動報告
- 4 近着の会員業績
- 5 事務局から
- ラテンアメリカ研究センターめぐり
- 海外ラテンアメリカ研究センター紹介

### 1 第 1 9 回 理事会報告

1984年3月21日(水) 13:00~17:00

於東京, 番町共済会館。出席理事7名。

#### ○報告事項

- i) 会報14号を編集発行した。
- ii) 会報15号は編集集中である。4月に発行の予定である。
- iii) 定例研究会 東日本部会は4月14日に上智大学で第8回を開催する。西日本部会は定期大会準備のため暫く延期する。
- iv) ラテンアメリカ・カリブ地域研究国際連盟(FIEALC)について 83年10月, 同連盟はカラカスにおいて第一回大会を開催し, 当学会からはオブザーバーとして松下・アンドラーデ両理事が出席した。同連盟は85年10月にスペインにおいて第二回大会を開催する。

#### ○審議事項

- i) 入・退会審査 書類を検討のうえ, 入会希望者5名のうち正会員4名の入会を承認し, 1名については保留と決定した。退会希望者1名はこれを承認した。この結果正会員数は249名となった。
- ii) 第5回大会組織 大会組織委員会は83年10月に第一回, 84年2月に第二回, 3月13日に第三回会合を開催した。構成は松

下洋委員長以下, 三橋利光, 二村久則, 三谷弘, 富野幹雄, 松下マルタの各氏及び原田金一郎理事である。これらの会合における審議をまとめたプログラム草案が本理事会に提出され, 重ねて細部の審議を行った。

第5回定期大会は本年6月9日・10日の二日間にわたり名古屋の南山大学で開催する。第一日午後に総会と新役員選出を行い, 第二日午後のシンポジウム主題は「経済危機下のラテンアメリカ」とする。

iii) 年報4号の編集 3月21日午前中に編集委員会は第四回会合を開催し, 応募原稿の採否を最終的に決定し, 依頼原稿の到着分とあわせて目次を決定した。理事会はこれを承認した。

iv) 財政事情について 本年2月末の時点で83年度支出は約180万, 収入は約132万, 会費未納者は累計101人・年である旨の報告が事務局からなされた。納入の督促を行うとともに, 増収・支出削減の方法を考えることを決定した。

v) 国際交流基金より依頼の, ラテンアメリカにおける日本研究の調査を引き請け, これを増田理事長に委嘱することを決定した。

### 会員名簿の作成中止のお知らせ

第四回定期大会では役員選挙がおこなわれますが, 財政事情悪化のため, 新しい名簿の発行は見合わせざるを得なくなりました。大会当日には1982年度版の名簿を御持参いただきますようお願い申し上げます。正誤表を配付して選挙人名簿として使用いたします。

## 産業能率大学異文化圏研究所

まず最初にこの研究所の紹介をするためには、いくつかの前提を理解して頂きたいと思えます。何故かと云えば、一般的な大学の研究所というイメージからしますと、やゝ異った形で仕事が進められているからです。

産業能率大学は、その設立の基本構想の一つに非常に広い意味での経営学の立場と、産学協同の姿勢と実学的な考え方を持っております。こうした基本的な大学としての教育姿勢に基づいて永年にわたる産業教育と短大教育の成果をふまえて四年制大学としては昭和54年に設立し、今年で丸五年目を迎えた所であります。

異文化圏研究所はこの四年制大学の設立と同時につくられたものでありまして、その目的と意図としては以下のようなものを持っております。

- (1) 大学の設立の主旨に添って国際化を研究面に於いて促進させる。
- (2) この主旨に基づいて異文化に関する基礎的、実証的研究を行う。
- (3) これらの研究活動と同時に、海外との教員、学生の交流を進める。
- (4) 異文化間教育のための教材開発を行なう。

以上のような主旨の他に具体的な運営の方法は、専従の研究員又は職員を少なくおさえ研究又は事業の企画が行われる場合は広く学内外を問わず、研究者を集めそのプロジェクトの実行を進めるものであります。

現在所長以下研究員三名と職員一名で毎日の業務は進められておりますが、当研究所としては、最初に世界を、北米、南米、東欧、西欧、東アジア、東南アジア、中近東、アフリカの八つの社会文化圏を想定し、その中より最も関心の高いものから基礎的な資料蒐集

に着手しております。

この結果、業績としては中国に関する総合的な情報提供が意義あるものと考えられ、昭和55年8月より季刊「中国の動向」(年4回発行)が発刊されております。

また、異文化研究の教材開発の試みとして日本人とアメリカ人やブラジル人を事例的に比較した「異文化研究」(昭和57年10月)を発刊し、学生に対して実験的に教育を進めつつあります。

以上がこの研究所の設立と今までの経過であります。今後の問題として現在の経営学の分野でとかく言われている日本の経営とその異文化間の関連についての基本的な調査研究の必要が考えられております。また、東南アジア諸国の国家間のプロジェクトに対する経営者教育のための日本の社会、文化への理解を派遣対象国の社会、文化との比較の上で理解させる新しいタイプの教材開発が要請されております。

研究所としてラテンアメリカに対する考えとしては、ブラジル・メキシコ等、同地域内でのより一段と発展段階を進めている国では、徐々ではあるがあらゆる分野で経営に関する関心が高まりつつあると見ております。またアメリカ的な経営手法がかなり入ってきていますが、それがラテンアメリカ特有の社会や文化システムの中では、どう借用され機能されていくかは一つの問題点と考えられます。又そうした過程の中で日本の経営の進め方に対して関心が高まる時期はそう遠くないのではないかと見ており、その時期までに対北米、対東南アジアについての異文化研究や教材開発を進め、その結果に基づいて実的な活動を意図しているものであります。

(文責 松本幹雄)

## 2 学術・文化情報

i) 日本国際政治学会ラテンアメリカ分科会  
昨年5月の学会春季大会の折に再発足し、  
昨年度は以下のような活動を行った。

- 第1回 1983. 5. 21 上智大学  
「訪中の印象」 加茂雄三, 吉森義紀  
第2回 1983. 11. 21 学士会館  
「米国の中米政策」 ジョセフ・タルチン  
(ノースカロライナ大学教授)  
第3回 1984. 3. 15 番町会館  
「最近の国際関係のなかのラテンアメリカ」

グスタボ・アンドラーデ

なお、第2回目は、米国史研究会及びラテンアメリカ史研究会との合同で実施された。

本年5月26～27日に神戸大学で開かれる学会・定期大会では、蔵重毅「メキシコの対中米政策 — ニカラグア以後」と乗浩子「新国家体制下での米伯関係」のふたつの報告が分科会で発表される予定である。

(文責 分科会責任者 松下 洋)

### ii) SALALM大会

ラテンアメリカ図書館資料収集セミナーは6月3～7日にわたり米国ノース・カロライナ州チャペル・ヒルにて大会を開きます。参加希望者は下記へお問い合わせ下さい。

Mr. William D. Ilgen  
SALALM XXIX  
Collection Development  
Davis Library 080A UNC-CH  
Chapel Hill, NC 27514 U. S. A.

### iii) アメリカニスト会議

第45回アメリカニスト国際会議が1985年7月8～12日にボコタ市で開催される。報告および大会参加希望者は1984年10月1日までに下記へ申込み下さい。

45 Congreso Internacional de Americanistas, Universidad de los Andes, Calle 18 A carrera 1 Bogotá - Colombia

### iv) LASA 85年大会について

第12回LASA大会は、1985年4月18～20日にかけて米国ニュー・メキシコ州アルバカーキーで開催されます。大会プログラムについての第一回目のお知らせはLASA Forum

vol. 14, No4 に掲載されています。なお、問い合わせ先は下記の通りです。

Local Arrangements Committee,  
LASA, Latin American Institute  
University of New Mexico  
Albuquerque, NM 87131 U. S. A.

### v) ガセイ南米研修基金

アルゼンチンに移住して成功された森山秀雄氏の篤志による奨学金で、1982年に発足。毎年2名(現在までの所男子のみ)に、南米の一国(主にアルゼンチン)で勉学・研鑽を積んで貰うことを目的としている。対象は学部学生及び卒業生で、書類選考と面接により選抜される。83年には、全国から73名・応募者があり、東大と東外大から各一名ずつ選ばれた。生活費(月額500ドル。ただし物価に応じて若干の変動あり)と、往復旅費が支給される。(文責 松下 洋)

### vi) 上智大学イベロアメリカ研究所ニュース

○移 転

四谷キャンパス7号館から、新図書館(L号館)6階611号室に移転した。新図書館は4月9日から業務を開始するので、当研究所もそれにならう。電話番号は変更なし。

### ○出版物

Sawada, Emilio, América Latina y Japón: Administración comparada, 122, iii p. (Investigaciones Latinoamericanas, 8) ¥1,800(一般), ¥1,000(学生) U\$10(海外)

『ラテンアメリカ文献目録 1982年』83p.

### ○講演会

I 日 時: 昭和59年4月10日

午後6時～8時

会 場: 上智大学7号館14階特別会議室

テーマ: 「ブラジルの社会と現実

カトリック教会の立場から」

講演会: イーヴォ・ローシャイタ司教

(ブラジル司教協議会会長)

Dom Ivo Lorscheiter

用 語: ポルトガル語(通訳つき)

会 費: 無 料

主催: 上智大学

ポルトガル・ブラジルセンター

☎ 238-3536

## 海外ラテンアメリカ研究センター紹介 (2)

### 第三世界経済社会研究所(メキシコ)

米村 明夫

メキシコの社会科学機関のうち、第3世界経済社会研究所 Centro de Estudios Económicos y Sociales del Tercer Mundo (略称CEESTEM)は、その規模、プレスティジから、コレヒオ・デ・メヒコとならぶ。1976年9月14日に当時のエチェベリア大統領の肝煎りで活動開始、職員は230名ほど(研究者150名ほど—約30%が先進国、途上国からの外国人—、事務関係80名ほど)を教える。法律的には政府の補助を受けた(半分为政府、半分为エチェベリア)公益法人である。

目的としては、第3世界の現状、問題を解決していくための研究を第3世界の国々自身の協力によって行っていくことがうたわれ、その組織構成も、問題トピック別になされている。以下に各部門 Coordinación の研究プロジェクトを掲げる。

#### [農村開発部門]

・食料・農民運動・少数民族・地域、都市開発・農村環境のための技術・協同組合方式と自主管理・青年研究

#### [コミュニケーション部門]

・情報社会・国際経済とコミュニケーションの新技术・ラテンアメリカにおける衛星通信・第3世界のコンピュータとデータバンク  
・有線テレビ・マイクロコンピューター、コミュニケーションの新技术と第3世界の諸国に関する資料センター

#### [新国際経済秩序部門]

・グローバルネゴシエーションの戦略・国際貿易と南々協力・経済危機と生産構造・メキシコにおける多国籍銀行と開発・第3世界のエネルギーと開発—ラテンアメリカの場合—  
・保税区の工業・基礎一次産品の国際貿易・第3世界、非同盟、自立的国家発展

#### [開発のための文化・教育社会学部門]

・伝統医薬と近代医薬の相互作用の過程  
・農村成人の学校外教育の方法の強化、システム化、援助・第3世界の解放斗争における造形芸術・ラテンアメリカの童話・教育行政における効率の改善、メキシコ公立学校校長のプロフィールと役割・第3世界

の女性の現状の研究・アジア、アフリカ、ラテンアメリカの新しい社会思潮・子ども—行動プログラムと概念の批判的分析・変動する現代世界の文化と権力・メキシコの大学と政治斗争—大学改革—  
平和研究・メキシコの文筆家達—批判的社会的歴史—

#### [国際関係部門]

・合衆国の再工業化とメキシコへの影響・移民、貿易、海洋権、外交関係—メキシコと合衆国の相互的側面—  
・合衆国における政治経済の国内情勢の進展・メキシコ国家・メキシコにおける危機の進展・ベックスの多国籍化・マグロ出荷の社会経済問題—メキシコと合衆国—  
海洋国際法の歴史、条文、慣行・メキシコの島々について・メキシコの漁業・中米における戦争の地域化・中米の衝突における教会の役割、  
・80年代の合衆国のヘゲモニーと第3世界、  
・80年代のソビエトのヘゲモニーと第3世界・研究対象地域での合衆国とソビエトのヘゲモニーの関係の性格に関する比較分析

当研究所は、他に、補助部 Unidad として、翻訳部、出版部、さらに資料部(図書館)を持つ。図書館は15000冊の蔵書を持ち、諸外国からの350誌紙をそろえ、一般の人々にも開放されている。

また、近年、第3世界研究の大学院レベルのマスターコース(2年)を開設し、教育活動も始めた。

同研究所の特筆すべき点として、メキシコシティ効外でぜいたくなコロニアルスタイルの建物、付帯設備のアカデミックな雰囲気の中で、数多くの国際会議が行なわれ、そこでは単に研究ばかりでなく第3世界の人々の連帯が確認されることがあげられよう。連絡先は以下の通り。Director General: Lic. Luis Echeverría Centro de Estudios Economicos y Sociales del Tercer Mundo (CEESTEM) Coronel Porfirio Díaz No.50, San Jerónimo Lidice, México 10200 D. F. MEXICO ☎ 595-20-88, 595-28-55

(なお、財政事情により今年1月より、研究部門のみ活動が休止中との情報を得たので追記させていただきます。)

協賛：上智大学  
イベロアメリカ研究所  
☎ 238-3530  
ポルトガル語学科  
☎ 238-3709

II 日 時：昭和59年4月24日(火)  
午後6時～8時  
会 場：上智大学7号館14階特別会議室

テーマ：「新秩序を模索するラテンアメリカ 帰国報告」

講演会：グスタボ・アンドラーデ  
(イベロアメリカ研究所長)

用 語：日本語

会 費：一般500円, 学生300円

VII) 国際交流基金による訪日者のリスト

1) 国際交流基金フェローシップ

○Guillermo E. Quartucci (アルゼンチン) エル・コレヒオ・デ・メヒコ, アジア・アフリカ研究センター教授(日本文学専攻) 予定：立教大学にて現代日本の文学とマスメディア研究 1984. 10月-85. 9月

○Rafael Campo (コロンビア) ハベリャナ大学社会学部教授(社会学専攻) 予定：上智大学イベロアメリカ研究所にて日本の発展過程における教育制度の役割およびラテンアメリカ諸国との比較研究 1984. 9月-85. 8月

○Danilo Pinto Lobo (ブラジル) ブラジリア大学文学部教授(日本語・日本文学専攻) 予定：早稲田大学・東京外国語大学にてブラジル文学における俳句研究 1984. 9月-85. 2月

○Salomon Lerner (ペルー) カトリック大学文学部教授(哲学) 予定：東京大学にて日本における仏教哲学の発展, マルティン・ハンデッカー思想との関連を研究 1984. 4月-5月

○Carmen Luz Latorre (チリ) 筑波大学客員研究員(経済・教育専攻) 同大学にて日本の中小企業, ラテンアメリカにとっての教訓についての研究を継続 1984. 4月-85. 3月

2) 文化人短期招聘者

○Julio Cesar Gancedo (アルゼンチン)

ラテンアメリカ文化審議会会長 南米美術館協会会長 <目的>文化・社会事情の視察 15日間

○Ruben Carpio Castillo (ベネズエラ) ベネズエラ中央大学教授(政治地理学専攻) <目的>文化・社会事情の視察 15日間

○José Antonio Pini Martínez (ウルグアイ) ウルグアイ共和国大学経済学部教授 <目的> 経済・文化・社会事情の視察 15日間

○Fernando Eleodoro Cuadra (チリ) チリ大学芸術学部長 <目的> 演劇・音楽・文学事情の視察 15日間

○Ricardo Blume (ペルー) エル・エメルシオ紙論説委員, 演劇俳優, テレビ映画解説者 <目的> 日本の演劇事情の視察 15日間

○Hector Encinas Peñaranda (ボリビア) ボリビア・カトリック大学副学長 <目的> 高等教育機関の視察 15日間

○Joaquín Medina (ホンデュラス) 文化・観光省次官 <目的> 文化・社会事情の視察 15日間

○Maurício de Souza (ブラジル) マウリシオ・デ・ソウザ・プロダクション社長 <目的> 漫画・アニメ事情の視察 15日間

○Marco Antonio Fiori (ブラジル) パラナ州立ロンドリーナ大学学長 <目的> 教育・厚生医療事情の視察 15日間

○O. Niemeyer (ブラジル) 建築家 <目的> 建築事情視察 20日間

○Marcio Villas Boas (ブラジル) ブラジリア連邦大学建築・都市計画学部長 <目的> 建築・都市計画事情の視察 15日間

上記訪日者に関する問い合わせは、国際交流基金人物交流部受入課(263)4497へ

### 3. 会員活動報告

i) 文部省科学研究費補助金による海外学術調査として、筑波大学山本正三を代表者とする「ブラジル北東部における土地利用の変遷と生態系の変化」についての研究の採択が内定した。

この研究は、ブラジル東北地方（ノルデステ）海岸部の湿潤熱帯（Zona da Mata）と内陸部の半乾燥熱帯（Sertão）において、自然生態系諸要素間の平衡関係の把握、および、農牧的土地利用による生態系の劣悪化の実態とそれに至るプロセスの解明を旨としている。

筑波大学・ラテンアメリカ研究会に所属する、西沢利栄（気候学）、林 一六（植物生態学）、松本栄次（地形学）、斉藤 功（人文地理学）が各専門分野の調査を担当し、自然・人文両側面から課題の解明にあたる。現地ブラジルからは、M. C. Andrade（ペルナンブーコ大学）、G. A. F. Monteiro（サンパウロ大学）をはじめ、パラバ大学の研究者、およびMario Hiraoka（米国・ミラスヴィル大学）が共同研究者として参加する。

調査期間は昭和59年6月29日から9月17日までで、9月上旬には、レシーフェにおいて、Joaquim Nabuco社会学研究所との共催で、調査報告をかねたシンポジウムの開催を予定している。

#### ii) ラテン・アメリカ政経学会関東部会春季報告会

3月24日産業能率大学で開催された上記報告会で次の2つの研究報告が発表された。

- 「メキシコの経済再建と外資政策の転換」  
丸谷吉男（アジア経済研究所）
- 「ボリビア東部低地開発と移植民政政策——日本人移住地評価への一試論——」  
国本伊代（中央大学）

#### 4. 近着の会員業績

〔抜〕吾郷健二、1982年：メキシコの経済危機『西南学院大学経済学論集』18巻4号（西南学院大学経済学論集、1984年3月）

〔籍〕今西正雄『大転換期のブラジル——理論と現実の歴史的研究——』（啓文社、1983年12月） 価1300円

〔籍〕栗原彬他編『世界社会学をめざして』（新評論〔叢書「社会と社会学」1巻〕、1983年12月） 執筆者 松下洋「アルゼンチンの政治社会学——ジェルマーニとオドネルを中心に——」 山本哲士「漫画ドナ

ルドダックの文化帝国主義——ラテン・アメリカのコミュニケーション装置研究のため——」〔誌〕『国際問題』282号（日本国際問題研究所、1983年9月） 特集——ラテンアメリカ——フォークランド紛争以後 執筆者 岩島久夫「フォークランド紛争の国際的意義——軍事戦略的側面を中心に——」 二村久則「ラテンアメリカ諸国の対米関係の変化と域内政治」 松下洋「ラテンアメリカ・欧州関係の展開——独立からフォークランド紛争まで——」

〔誌〕『資料ラテンアメリカ』5号・6号（資料ラテンアメリカ刊行会、1984年3月・6月） 連絡先は青木芳夫。B5判タイプ印刷各200部。第5号14頁レヴィ／スセケリー「1980年代メキシコの開発モデル」、『メキシコ——安定と変化のパラドクス』（1983）の第8章を訳出。第6号20頁レンソ・メイエル「政治変動と従属——20世紀のメキシコ」、『フォロ・インテルナショナル』誌1972掲載論文訳出（一部省略）〔冊〕住田育法監修、松本満栄・角井恵利子・岩崎博子・細尾彬子訳『ネグラ・パイアナ』（グルボ・アウリヴェルデ、1984年3月）ブラジル地理統計院編Tipos e Aspectos do Brasil（10版、1975年）から北東部の部分を訳出。B6判40頁タイプ印刷挿絵入。連絡先☎615京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学住田研究室。

〔誌〕『創文』238号（創文社、1983年11月） 執筆者 松下洋「第三世界研究の新しい道——最近のラテンアメリカ政治研究から——」

〔抜〕角川雅樹、メキシコと日本の知識人の対欧米態度『季刊人類学』12巻2号（京都大学人類学研究会、1981年） 著者姓の訓みはつのかわ。

〔籍〕Matsushita, Hiroshi, Movimiento obrero argentino 1930-1945: Sus proyecciones en los orígenes del peronismo, (Buenos Aires: Ed. Siglo Veinte, 1983)

〔抜〕松下洋、ラテンアメリカの軍事化『平和研究』8号（日本平和学会、1983年11月）

〔抜〕Matsushita, Marta, La Genera-

ción de 1837 en la historia de las ideas políticas argentinas 『アカデミア』文学語学編21号〔97集〕(南山大学, 1973年)

〔抜〕Matsushita, Marta, Una ideología transformadora: "Las Bases" de Alberdi, 『アカデミア』人文・自然科学編保健体育編27号〔115集〕(南山大学, 1977年2月)

〔抜〕Matsushita Marta, La renovación ideológica de 1842 en Chile 『アカデミア』人文・自然科学編保健体育編33号〔143集〕(南山大学, 1981年2月)

〔抜〕Matsushita, Marta, Antihispanismo y anticatolicismo en el pensamiento de Francisco Bilbao 『アカデミア』人文・社会科学編36号〔155集〕(南山大学, 1982年9月)

〔抜〕Matsushita, Marta, El problema del indio en el pensamiento de Alcides Arguedas 『アカデミア』人文・社会科学編38号〔166集〕(南山大学, 1983年11月)

〔抜〕山田陸男, ブラジル北東部の空間占拠と開発過程 — 農業と牧畜の分離と地域問題の形成 — 『ラテンアメリカ研究』4号(筑波大学, 1982)

〔抜〕Yamada, Mutsuo, Mexico City : Development and Urban Problems before the Revolution, 『ラテンアメリカ研究』7号(筑波大学, 1983)

〔抜〕Yamada, Mutsuo, Mexico City : Development and Urban Problems after the Revolution, 『ラテンアメリカ研究』(筑波大学, 1983)

〔誌〕『拉丁美洲叢刊』1983年3, 4, 5, 6号, 1984年1号(中国社会科学出版社, 1983年6月~1984年2月)

3号は紀念西蒙・玻利瓦爾誕生二百周年專輯。

〔誌〕『立教大学ラテン・アメリカ研究所報』(立教大学ラテン・アメリカ研究所, 1973年3月より年一回刊) 連絡先豊島区西池袋3丁目電話03-985-2578 B5判表紙なしタイプ印刷平均20頁。

○(1号)〔複写〕(1973年3月, 1号

より7号までは号数なし) 海老沢有道, 荒川邦寿, 根本通彦, 金子博夫, 岸野久

○(2号)〔複写〕(1974年1月) 海老沢, 西沢利栄, 藤田富雄, 桑原恭子, 木村政康, 多部田博子

○(3号)〔複写〕(1975年1月) 海老沢, 西沢, 岸野, 福本久美子

○(4号)〔複写〕(1976年1月) 海老沢, 福本

○(5号)〔複写〕(1977年2月) 西沢, 高橋都彦, 岸野, 内海茂直

○(6号)〔複写〕(1978年2月) 丸谷吉男, 栗原謙二, 多部田

○(7号)〔複写〕(1979年2月) 藤田, 浦和幹男, 西沢。

○(8号)〔複写〕(1980年2月) 小池洋一, 岸野, 山本純一, 早川美子

○(9号)〔複写〕(1981年2月) 浦和, 山本

○(10号)〔複写〕(1982年2月) 小坂允雄, 海老沢

○(11号)〔複写〕(1983年2月) 横田寿百合, 安藤二葉, 山之内驥, 中山さくら

(誌) Desarrollo de base : Revista de la Fundación Interamericana 7 :2(1983) Fundación Interamericana /1515 Wilson Boulevard/Rosslyn, Virginia 22209/USA

## 5. 事務局から

### i) 新入会員(第19回理事会承認)



— 会 費 納 入 の お 願 い —

理事会報告で記されていますように、3月16日の時点で101人の会費未納者があり、学会の財政事情は逼迫しております。年報の発行をひかえて資金繰りに苦慮しておりますので、83年度会費の未納分だけでなく出来ましたら84年度分も納入していただきたく、会員の皆さまのご協力をお願い申し上げます。なお、学会の会計年度は4月1日に始まります。

No. 14 1984年4月20日発行

日本ラテンアメリカ学会事務局

〒153 東京都目黒区駒場

3-8-1

東京大学教養学部8号館

中南米分科気付

☎03(467)1171

内線579